

京の博物館

目次

巻頭言……………	1	トピックス……………	6
おこしやす		京のかるチャーすぽと「ひと・もの・わが館自慢」…	9
・川島織物セルコン 織物文化館 ……	2	絹の白生地資料館 伊と幸ギャラリー／京都	
・虎屋 京都ギャラリー ……	3	精華大学 ギャラリーフロール／京指物資料館	
・龍谷大学 龍谷ミュージアム…	4	ティータイム……………	12

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言 第51号の刊行にあたって

ほそみ よしゆき
細見 良行

(京博連幹事長, 細見美術館館長)

加盟会員の皆様には、日頃から京博連の活動にご協力を賜り感謝いたします。

さて、京都市内の博物館ネットワークを作ろう、との思いから平成4年に設立された京博連も、今年、設立20周年を迎えることになりました。

20年の間に、京博連には様々な変革がありました。当初は100館あまりの加盟施設でしたが、昨年早々には、ついに加盟施設が200館を超え、全国でも類を見ない、非常に大きな博物館ネットワークとなりました。

これを記念して、各施設からのご協力をいただきながら、平成23年10月21日、博物館ハンドブック「京発見！ミュージアムへ行こう」を発行しました。これまで京博連が発行してきた博物館ガイドブック「京のかるチャーすぽと」とは違う視点から作った、まち歩きの手帳に適した小さなハンドブックです。おかげ様で、発行後には各方面から好評をいただいております。

このような中、今年、設立20周年を迎えることを期に、京博連がはじめて独自のホームページを開設することになりました。詳細については本号の中でもご紹介していますが、これから、このホームページを活用して、京博連のより一層のPRができるのでは、と思っています。また、20周年を契機に、現在行っている様々な事業についても、より時勢に即した形にリニューアルしていくことも必要ではと思っています。

そこで、この「京の博物館」についても、この度のホーム

ページの開設に伴い、今号で一時的休刊とさせていただきます。これまでは、京博連の情報発信媒体として、加盟館紹介や京博連主催事業のお知らせなどを掲載し、博物館情報誌として重要な役割を果たしていましたが、今後は独自ホームページによるインターネット上の情報発信により、京博連や、京博連に関連する事業内容をより幅広く市民の皆さんに知っていただきたいと思っています。

これまで「京博連だより」に親しみ、お手元に届くのを楽しみにしてくださっていた皆様に感謝の意を表するとともに、これからも京博連としてより充実した情報発信につとめていきます。

また、節目の20年目に幹事長をつとめる者として、これまで積み重ねられた京博連の長い歴史や、京博連にかかわり、愛してこられた諸兄諸姉の思いを大切にしながら、これからの京博連の新しいあり方について、真摯に提案を行っていきたく考えています。

あわせて、これからも皆様から運営等について、ご意見をいただきたく思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



おこしやす

かわしまおりもの

川島織物セルコン

おりものぶんかかん

織物文化館

館長 松村 隆史

株式会社 川島織物セルコンについて …



本社 市原事業所

弊社は初代川島甚兵衛が富山の城端から京都へ出て、苦労を重ね、天保14年（1843）に呉服悉皆業こふくしつがいまよを創業したことに始まります。日本の開国に伴い、いち早く貿易の有望さを察知し、京都における洋反物取り扱いの始まりとなり、大いに繁盛いたしました。

明治に入り、二代甚兵衛は将来海外輸出を志すなら一層の品質向上を図らねばと、丹後縮緬の改良に着手、明治17年（1884）川島織場を建設し、数多くの縮緬を改良し、好評を博します。その後、西陣織に本腰を入れ、豪華絢爛な美術織物の製作を開始いたします。

明治19年（1886）ヨーロッパに渡り、フランスでゴブラン織に刺激を受け、後に日本の綴織を改良し、技術的完成度を高め、数多くの万国博覧会に大作を次々に発表して金賞・大賞などを数多く受賞し、日本文化の高さを世界中に知らしめました。

また、このヨーロッパ各地の歴訪で、室内装飾を学び、明治21年（1888）明治宮殿こどうえいそうしきくおりものの御造営装飾織物を納入いたしました。

宮内省にはこれら業績を評価いただき、明治24年（1891）に、日本の会社として第一号の「宮内省御用達」となり、さらに明治31年（1898）には「帝室技芸員」を拝命いたしております。

この明治宮殿の室内装飾を手掛けたことがインテリアへの

事業展開の契機となりました。

そして、時代が変わろうとも、織物美への情熱は変ることなく現在に受け継がれています。インテリア室内装飾に、劇場の緞帳に、自動車や航空機、新幹線のファブリックシートに、そして和装の帯にとその精神を忘れることなく、これからもこだわりと妥協をしないものづくりに徹した企業であることに誇りを持って、時代にあった織物への挑戦を続けて、新しい伝統を築いていきたいと考えております。

（自動車・列車・航空機内装材事業は、平成22年7月1日より事業分割し、TBカワシマ株式会社として事業を運営しております。）

織物文化館について ……………

当館は明治22年（1889）京都高倉三条に建築した「織物参考館」が始まります。この「織物参考館」は3階建てで1階部分には内外の染織品コレクションを、2階には古書コレクションを展示し、3階は部屋全体の内装を織物で装飾し机・椅子などの什器類も全て日本品で詠えたショールームを備えていました。翌年1月には九鬼隆一帝国博物館総長が「川島織物博物假館はくぶつかりかん」と名付けてくださるほどの評価をいただき、公開と同時に内外のお得意先や研究家が競って参観され、その趣向の斬新さと装飾性の豊かさ・優雅さを賞賛されたと伝えられています。

そして昭和59年（1984）京都・市原の里に「織物文化館」として再開館いたしました。現在の各種コレクションは初代甚兵衛、二代甚兵衛が世界各国から蒐集した染織品約8万点、国内外の古書が約2万点、創業以来製作して参りましたしゅうざれ試織裂、原画類が計6万点、合わせて約



織物文化館 外観

16万点を収蔵しています。

先人達が遺してくれた史資料を研究し、未来を担う社員にものづくりの精神を語り継ぐためにさらに調査・研究をかさねてまいります。

館内の展示は、こだわりのものづくりを紐解き、染織品の製作に関する歴史的史資料を紹介しています。我が国独特の情緒や季節感が薄れつつある現代、あらためて日本の染織文化の流れを楽しんでご鑑賞いただけますようご案内申し上げます。



館内展示

川島織物セルコン 織物文化館

所在地 〒601-1123
京都市左京区静海市原町265
TEL (075) 741-4120
FAX (075) 741-4121

交通 京都バス「小町寺」から徒歩約3分、叡山電鉄鞍馬線「市原」駅から徒歩約5分
タクシーの場合は地下鉄烏丸線「国際会館」駅から約15分、京阪電鉄「出町柳」駅から約20分、JR京都駅から約40分

開館時間 10:00~16:00 (要予約)

休館日 土・日曜日、祝日、会社休業日

料金 無料

ホームページ <http://www.kawashimaselkon.co.jp/ja/bunkakan/index.html>

とら や きょう と 虎屋 京都ギャラリー

株式会社虎屋
京都管理部文化事業課

課長 浅田 ひろみ

虎屋発祥の地・京都



ギャラリー 内観

虎屋は室町時代後期の京都で創業、五世紀の永きにわたって菓子屋を営んでまいりました。後陽成天皇御在位中（1586～1611）より禁裏の菓子御用を勤め、現在に至っております。また、妙心寺の『しょうぼうさんし正法山誌』には「市豪虎屋」の名とともに、慶長五年（1600）関ヶ原の戦で、西軍の武将石河備前守を虎屋がかくまった故事が記されております。江戸時代には禁裏より近江大掾の称号をいただいていたため、「虎屋近江」と称していました。明治2年（1869）明治天皇の東京遷都にお供し東京店を開設しましたが、京都の店もそのまま営業を続け、虎屋のふるさととして大切にされてきました。2009年の

新装開店を機に敷地内に虎屋京都ギャラリーを開設し、展示や講演会を催しています。

京都の景観に配慮した建築

建設にあたっては、瓦屋根の傾斜を江戸時代からある蔵とそろえ、石材や植栽は新築前から使われていたものを活用するなど京都御苑周辺の環境に配慮しました。鬼瓦や建具にも京都ならではの手仕事が活かされています。棟続きの喫茶「虎屋菓寮」では和菓子を味わいながら日本文化や京都にまつわる約600冊の書籍を自由に閲覧でき、外国語の書籍も多いので、海外のお客様にも喜ばれています。周囲に路地がめぐられ、庭からはガラス越しにお菓子づくりが見えますので、敷地内の探索もお楽しみください。

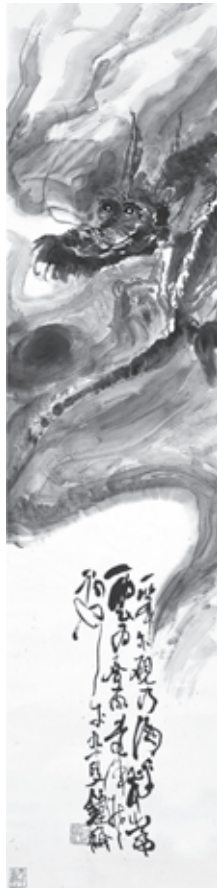


虎屋菓寮 内観

所蔵品と展示

富岡鉄斎の住まいは虎屋に近く、親しく交流していたこともあって絵画や書状を所蔵しています。

このほかに京都ゆかりの作家も含め、書画、茶道具などを中心に展示してきました。今回は老舗友禅工房・岡重様のご協力により、羽裏のコレクションをご紹介します。京都御所一般公開期間中は観光のお客様が各地から大勢見えることもあり、所蔵品に限らず京都らしい展示を開催していきたいと考えています。



富岡鉄斎「墨龍図」

虎屋京都清談

展示期間中以外、ギャラリーにはお入りいただけませんが、年に何度か講演会を開催しています。なかでも特別な講演会「虎屋京都清談」をご紹介します。

まず、複数回にわたり同じ講師、同じ受講者が集います。講師には内容にまつわる展示品をご持参いただき、受講者と共に対話しながら鑑賞します。また、虎屋の職人が講師と相談しながらお作りした新作のお菓子を召し上がっていただきます。これまでは千家十職の中村宗哲氏、陶芸家の諏訪蘇山氏をお招きし、代々伝わる作品を直接鑑賞しながらお話をうかがい、最終回にあわせて新作の器とお菓子を披露するという大変贅沢な内容でした。2月には「香道と王朝の和歌」と題し、山田英夫氏（山田松香木店社長）が講師をつとめられます。

ささやかなギャラリーではありますが、虎屋発祥の地で新たな文化を創造・発信していくことができれば幸いです。



虎屋京都清談

虎屋 京都ギャラリー

所在地 〒602-0911
京都市上京区一条通烏丸西入
TEL (075) 431-4736

交通 地下鉄烏丸線「今出川」駅
下車6番出口徒歩約7分

開館時間 11:00～17:00

開館日 企画展開催期間

料金 無料
(虎屋京都清談ほか
イベントによっては有料)

りゅう こく だい がく
龍谷大学

りゅう こく
龍谷ミュージアム

館長 宮治 昭

龍谷ミュージアムは龍谷大学の仏教総合博物館という基本理念のもとに、昨年4月5日に開館しました。龍谷大学は西本願寺（浄土真宗本願寺派）の宗学研鑽機関である学寮を起源とし、開学370周年の記念事業の一つとして建設されたものです。



龍谷ミュージアム 外観 (撮影：東出清彦)

建物・展示室・シアター

建物は西本願寺の堀川通りを挟んで向かい側（東側）にあり、龍谷大学大宮キャンパス（文学部）にも近い位置にあります。地下1階、地上3階建てで、1階にはカフェ・ショップがあり、地下1階に外光を取り入れた広いエントランスを設け、そこに受付があります。展示室は2階と3階にあり、それぞれ約500㎡の広さです。2階では「アジアの仏教」、3階では「日本の仏教」を基本に、龍谷大学の学術研究の成果を展示して教育に生かすと同時に、一般にも広く公開し、発信を心がけています。

2階のコーナーには、中国新疆のベゼクリク石窟の素晴らしい壁画を原寸大で復元した回廊を常設展示しています。千年昔のシルクロードの色鮮やかな仏教壁画が蘇り、当時の寺

院の雰囲気を伝えます。これは龍谷大学の理工学部と文学部の教員の共同研究の成果によるもので、NHKの新シルクロードの番組でも取り上げられました。

3階には47席のミュージアム・シアターを設け、超高精細の画像で、「伝えゆくもの－西本願寺の障壁画－」と「よみがえる幻の大回廊－ベゼクリク石窟－」をお楽しみいただけます。



ストウッコ仏頭



サンスクリット般若経



ベゼクリク石窟復元大回廊（撮影：東出清彦）

龍谷大学の伝統を生かしたミュージアム ……



2F展示室

龍谷ミュージアムは、インドで興り、アジアに広く伝播し、日本で大きく展開した仏教を、経典や碑文、仏像、仏教絵画といった文物を基にして、思想や僧の生活、美術など多角的な視点のもとに分かりやすく展示することを目標としています。

西本願寺第22代門主・大谷光瑞師が1902～14年に組織した大谷探検隊は、仏教伝播のルートを明らかにすべく、隊員たちはインドや西域の仏教遺跡を精力的に調査し、多くの知見を初めて日本にもたらしました。龍谷大学は、大谷探検隊が将来した経典写本・古文書類や考古美術資料などを約9,000点所蔵しており、その研究を蓄積してきました。

また、西本願寺歴代の門主が収集した写字台文庫と呼ばれる、多くの貴重な古写本・古版本類があり、さらには浄土真宗の法宝物も所蔵され、長年にわたるそれらの研究の伝統もあります。

こうした龍谷大学の特色ある所蔵品と学術研究の蓄積を生かし、さらに研究のネットを構築しつつ発展させ、その成果を公開していきたいと考えています。文化財の保存やデジタル・アーカイブも大きな課題です。

今年度と今後の展覧会 ……

昨年4月より今年3月25日まではミュージアムの開館と親鸞聖人750回大遠忌法要を記念して、仏教の開祖釈尊と、浄土真宗の開祖親鸞聖人に焦点を当てた特別展「釈尊と親鸞」を開催しています。1年間を6期に分けて展示替えをし、「釈尊」ではガンダーラの仏像浮彫や西域の経典・壁画などを中心に、「親鸞」ではその生涯と足跡、真宗の広がり絵画や彫刻、文書などでたどる展覧会です。国宝・重文を含む多くの借用品・所蔵品を展示し、記念図書『釈尊と親鸞－インドから日本への軌跡－』（法蔵館）、および全8冊の冊子図録も発行しています。

2012年度以降は「アジアの仏教」「日本の仏教」の常設展の他に、春と秋の年2回の特別展、および企画展を開催する予定です。今年の春に企画展「良如宗主と龍谷大学の歩み」、そして春季には「仏教の来た道」、秋季には「絵解き」をテーマにした特別展、来年冬には「若狭・多田寺の名宝」の企画展を現在準備中です（タイトルはいずれも仮題）。ご期待下さい。

龍谷大学 龍谷ミュージアム

所在地 〒600-8399
京都市下京区堀川通正面下（西本願寺前）
TEL (075) 351-2500
FAX (075) 351-2577

交通 市バス「西本願寺前」下車 徒歩約2分、地下鉄烏丸線「五条」駅から徒歩約10分、JR・地下鉄・近鉄電車「京都」駅から徒歩約12分

開館時間 10:00～16:30

休館日 月曜日（祝日は開館。ただし翌日休館）

料金 常設展 一般500円 大学生・シニア（65歳以上）400円
高校生300円 中学生以下無料（20名以上は団体割引あり）
※特別展・企画展は別途

ホームページ <http://museum.ryukoku.ac.jp>



京博連ホームページ開設のお知らせ



このたび、京博連の単独ホームページが開設される運びとなりました。

これまでの京博連ホームページは、京都市教育委員会ホームページの一部として開設されていましたが、今回、新たに京博連だけのホームページを作成いたします。

主に一般の方を対象に、京博連の紹介や加盟館検索など、わかりやすく、かつ心ひかれるホームページを目指しました。加盟館は、五十音順やエリアで検索できるだけでなく、テーマ分類（「茶・花・香で京を味わう」、「都の歴史を感じる」など）からも検索できるようになっています。

京博連加盟会員の
みが利用できるページも準備しており、京博連事業についての報告や、予告など、いち早くご覧いただくことができます。
(インターネットを利用されない方は、下記に記載している「京博連通信」(仮称)で情報を確認いただくことができます。)

ホームページの運用開始は、今年の2月下旬頃を予定しています。加盟会員の皆様におかれは、ご活用のほど、よろしくお願いたします。

・メインビジュアル
スライドショーで写真(京都の風景・施設等)が切り替わって表示されます。

・新着情報、募集情報
最新の新着情報(お知らせ)と募集情報が表示されています。

・加盟館データ検索
「エリア」と「施設名」と「テーマ」から加盟している施設を絞り込み、検索結果(Googlemap)のページへと遷移します。「エリア」で探す際は、右側の地図にマウスカーソルを乗せることで、エリア名が表示されます。

・サイドメニュー
「ミュージアムロード」等の事業、「京のかるちゃーすぽっと」等の発行物へのリンクを掲載します。

・バナーエリア
関係団体等へのリンクです。

トップページ (イメージ)

「京の博物館—京博連だより—」休刊のお知らせ

前号で、創刊から50回目の発行を迎えた、歴史ある「京の博物館」ですが、平成24年2月下旬頃に、新たに京博連独自のホームページが開設されるのにもない、今号をもっていったん休刊といたします。

京博連としての外部への情報発信、会員相互の連絡・情報交流の機会として、平成7年に発行が始まって以来、「京の博物館」は重要な役割を果たしてきました。

今後は、外部への情報発信については前述のホームページを利用して、より広く対象を拡大して行っていく予定です。

また、連絡・情報交流の一環として、これまで「トピックス」コーナーなどで会員の皆様にお知らせしてきた京博連事業の予定や、新規会員のご紹介などについては、引き続き事務局から「京博連通信」(仮称/不定期発行)を発行し、郵便でお送りする予定です。

これまで、「京の博物館」へのご寄稿等、ご協力くださった方々、楽しみにご愛読くださっていた方々、皆様に改めて感謝申し上げます。

新規加盟会員の紹介

本年度の第1回、第2回幹事会において、新たに5会員が加盟されました。また、正会員の、京都お箸の文化資料館が退会されましたことをあわせてお知らせします。

◆新規入会

- ・ 京指物資料館 (中京区夷川通堺町西入る絹屋町129番地)
- ・ 京都大学百周年時計台記念館歴史展示室 (左京区吉田本町)
- ・ ぎをん^{おも}思い^{はくぶつかん}で博物館 (東山区川端通四条上る常盤町178番地 北座ビル5階)
- ・ 虎屋^{とら}京都^{きょうと}ギャラリー (上京区一条通烏丸西入)
- ・ 龍谷^{りゅうこく}大学^{だいがく} 龍谷^{りゅうこく}ミュージアム (下京区西中筋通正面下る丸屋町117)

※すべて正会員。50音順。

平成23年度「博物館ふれあいボランティア養成講座」報告

京都市内の博物館施設で活動する「博物館ふれあいボランティア」の養成講座を、京都市教育委員会との共催で、今年も実施しています。(全5回)。

10月21日(金)の第1講では、明珍健二先生(花園大学文学部教授)から「博物館とは」と題して、博物館法をもとにしたご説明や、現場の具体的な業務などを受講者にお話いただきました。引き続き、川瀬恵子先生(レクリエーションコーディネーター)のご指導によりアイスブレーキングを実施。体を使ったゲーム等で、初対面の受講者同士がコミュニケーションをとることができました。

さらに、11月21日(月)の第2講では、石井祐理子先生(京都光華女子大学キャリア形成学部准教授)から、「ボランティア活動で私らしさを発揮するために」というテーマで、日本におけるボランティア活動のこれまで、最近の動向、活動を行うにあたって大切にしたいことなどお話いただきました。



講義風景



月桂冠大倉記念館での講座

続く12月14日(水)の第3講は、京博連加盟施設である月桂冠大倉記念館の全面的なご協力のもと、同館で講座を実施しました。「ボランティアのための接人力[®]の磨き方」と題して、マリエスプランニング代表の鈴木麻理氏による講義と実習が行われ、実習では、2人1組になって、信頼感を持たれる距離感や挨拶の仕方、身だしなみの気づかいなど、人と接する際のマナーを再確認いただきました。また、先輩ボランティアの案内で、会場館の見学も行い、先輩が活動する様子を実際にご覧いただきました。

1月18日(水)に行われた第4講では、明珍健二先生から「博物館におけるボランティアの役割とは」と題したご講義をいただいた後、これまでグループに分かれ、テーマ「博物館と学芸員のよりよいあり方について」について話し合ってきた内容を受講者が発表し、明珍先生から講評いただきました。

講座も残すところ、2月3日(金)の1回のみとなり、本講座を修了された受講者の皆さんは、修了生でつくる「虹の会」会員として、4月から活動を開始されます。



グループ発表の様子



第17回 京都ミュージアムロード

行ってみよう！京の文化巡り

京都ミュージアムロードは、市民や観光客の皆様には、京都の博物館・美術館等を身近に感じていただくことを目的に、毎年開催しています。

17回目となる今回は、「行ってみよう！京の文化巡り」をテーマに、平成24年1月27日(金)～3月20日(火・祝)まで開催^{※1}。昨年の72館を上回る、75館にご参加いただきます(昨年に引き続き、過去最高)。各会場館において、それぞれの専門性を活かした色々な分野の「京の文化」を体感していただく展示企画や体験企画が目白押しです。

また、人気の「スタンプラリー」を今年も実施します。楽しみながら各会場を巡る「スタンプラリー」は、毎年参加者から大変反響をいただいています。各会場に設置されているスタンプを3つ集めて応募していただくと、会場館からご提供いただいた、素敵な記念品(全52種類、483品)が抽選で当たるプレゼント企画です。

さらに、すべての応募者の中から、抽選で50名の方に、平成23年10月21日に発行し、好評をいただいている博物館ハンドブック「京発見！ミュージアムへ行こう」のプレゼントも行います。

今年で17回目を迎える「京都ミュージアムロード」。美術館や博物館が好きな方にとっては「京の冬の風物詩」としてなじんできたのではないのでしょうか？今年も、参加館の皆様のご協力をいただき、工夫をこらしながら、参加者に「京の文化巡り」を楽しんでいただきたいと思ひます。



京発見！
ミュージアムへ行こう
市内博物館施設の概要紹介と所在地を記載したハンドブック。持ち歩きに適した小さめサイズ。加盟館ご協力のもと、ポストカード等のプレゼントや入館料割引など、うれしい特典も含まれています。

- ※1 会場により開催期間が異なります。
- ※2 パンフレット(スタンプラリー台紙)は、各会場の他、市役所案内所、区役所・支所、図書館等に設置します。京都市教育委員会のホームページから印刷していただくこともできます(「第17回京都ミュージアムロード」で検索)。

平成23年度「博物館連続公開講座」開催中!

毎年、多数のお申込みをいただく「博物館連続公開講座」(5回)。今年度も、10月から開催しています。すでに4館での開催を終え、残すところ、京指物資料館で開催(2月6日実施)の第5回のみとなりました。

～これまでの講座～

第1回 10月7日(金)

小堀京仏具工房 京仏壇京仏具資料館

専務取締役の小堀進氏から「技術の伝承」をテーマにご講演いただいたあと、京仏具工房の見学と、杯に金箔を貼る体験を。小堀氏による締めくくりのお話「お仏壇ハッピーエンド物語」では、ほろりとする内容に目頭を押さえる参加者の姿も見られました。



工房で説明を受ける受講者

第2回 11月8日(火)

同志社大学 Neesima Room

企画展「京都の中の同志社-相国寺、朝廷と明治の近代化-」をテーマに准教授の浜中邦弘氏、社史資料調査員の小枝弘和氏からご講演をいただきました。続いての企画展見学でも丁寧な解説を行っていただき、参加者のみなさんは時間いっぱい、熱心に聞き入っておられました。



大学構内で行われた講義風景

第3回 12月16日(金)

龍谷大学 龍谷ミュージアム

昨年4月に開館したばかりのミュージアムでの開催。講師の岩井俊平氏による「釈尊と親鸞～インドから日本への仏教の広がり～」と題したご講演のあと館内見学。参加者のために、特別にシアターで臨時上映もしていただき、充実の展示と迫力の映像を堪能することができました。



貴重な展示の数々を見学

第4回 1月20日(金)

藤井齊成会 有鄰館

はじめに、ルネッサンス風の第二館ホールで、オーナーの藤井善三郎氏から「私達の祖先文化に想いを馳せる」と題したご講演をいただき、その後、第一館へ移動して展示見学。貴重な展示の数々を前に参加者からは、満足の声があがっていました。



藤井オーナーから展示の説明を受ける受講者

きぬ しろ き じ しりょう かん
絹の白生地資料館

い こう
伊と幸ギャラリー

株式会社 伊と幸 取締役 社長室長
ギャラリー主宰 北川 幸

わが館を紹介

覧になる機会は、ほほないかもしれませんが、お料理と同じく、着物もまず素材となる白生地が、とても大切です。

お一人様のお着物ひと揃えに必要な繭はどの位だと想像されますでしょうか？答えは、10,000粒です。10,000頭のお蚕様より繰り出す生糸およそ3.3kgから、



繭10000粒と生糸3.3kg

やっとお一人様分の裕のお着物・襦袢・帯・帯揚げ・帯メができることとなります。その長さを一つなぎにすれば12,000kmにもなり、東京～大阪間の11往復に相当します。太古の昔より、昆虫の中で、蜂と蚕は、人の手で大事に育まれてきました。「天の虫」と書く「お蚕さま」は、「一頭、二頭」と家畜同様に数えます。数千年かけて、飼われてきた家蚕の一生は、45日余り。羽ある蛾となっても、飛ぶことができず、交尾・産卵して終わります・・・人に慈しまれ、人に尽くす宿命を負った生涯です。本来、繭とは、幼虫が安心して成虫へ変態を遂げるための隠れ蓑。人は、その繭を有り難く頂戴し、糸として丁寧に繰り出し、お蚕さまへ感謝の気持ちを込め、織物にしてきました。絹文化の重みをお伝えできればと思っております。



白生地の地紋様 (洋花唐草)

わが館ひと自慢

座番組が放映され、呼応したテキストも書店に並ぶなど、着物の学びが大事になっております。

平成24年からは、中学校の授業でも和装教育が重視されるそうで、小学生のクラブ活動でも和文化が人気とか。親子連れで学習に見えることもあります。和の心を持った来館者の皆様こそ、わが館ひと自慢でございます。

当館に来られる方は、皆さん熱心です。着物文化が、おうちで母から子に伝わりにくい時代になり、着物学の講座やきもの文化検定、NHKの教育テレビでも講

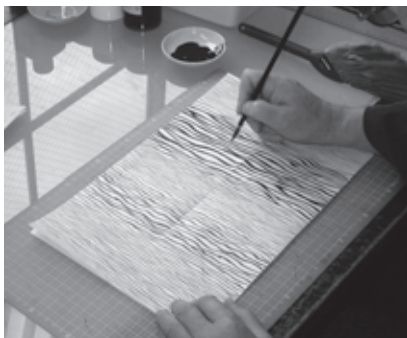


熱心な来館者の皆様

わが館もの自慢

本年初めて、当館もミュージアムロードに参加させていただきます。積極的に観光客を誘致し、世界に冠たる観光都市「京都」ならではの文化体験につながっていきますよう、私共で可能な限り精一杯力を尽くしたいと思っております。文化は物事の本質を射抜き、突き動かす力を持っています。着物は、日本文化の象徴です。独自の文化を持っているということは、対外的な対等関係を築き、結果として平和に寄与すると考え、文化の力を信じて精進して参りたいと思っております。

当社の創業は、昭和6年。祖父、伊藤幸治郎の名前から「伊と幸」の社名が生まれました。画号を有し日本画の心得があり、その絵心を白生地の地紋に織り込みたい、伊と幸だからできる地紋様を生み出したいとの思いで創業し、今日も社内図案家はその遺志を継ぎ、今日までに白生地ばかりで200種類およそ1000柄を作り出して参りました。



社内図案家によるオリジナル図案



ギャラリー主宰 北川幸氏

●所在地

〒604-8176 京都市中京区御池通室町東入ル
竜池町448-2 伊と幸ビル4F (受付は6F)

●TEL (075)254-5884

●交通 地下鉄烏丸線/東西線「烏丸御池」駅下車
北2番出口すぐ

●開館時間 9:30~17:30 (事前予約が必要)

●休館日 土・日曜日、祝日

●料金 無料

●ホームページ <http://www.kimono-itoko.co.jp>

●E-mail support@kimono-itoko.co.jp

きょうと せい か だいがく
京都精華大学ギャラリーフロール

京都精華大学情報館次長
 (ギャラリーフロール担当) **小林 昌夫**

わが館を紹介

当ギャラリーは京都精華大学が運営する大学ギャラリーで、1997年旧大学図書館を改装して開館し、1999年には博物館法における「博物館相当施設」として登録されました。組織としては図書館部門、メディアセンター部門とともに博物館部門として、「情報館」という施設を形成し、広く学術・文化情報を収集し、公開する活動を一元的に行っています。ギャラリーでは資料の収集・管理、展覧会の開催等一般の美術館と同様の活動を行っていますが、大学ギャラリーの特徴として、学内の研究・制作活動と密接に関連する展示や研究がなされています。しかし利用については学内だけでなく、広く一般の皆さんにも開放し、大学の社会的貢献を果たす役割も担っています。

展覧会は年12回程度開催しますが、そのうち3回程度は大学が主催する企画展や所蔵品展で、その他は本学の教職員や在学生、卒業生が企画して申請する申請展です。また常設展示室では当ギャラリーが所蔵する約12,000点の所蔵品の中からテーマに沿った展示を行っています。

またすべての所蔵品はデータベース化され、ウェブ上で公開していますので、当ギャラリーでの観覧とともに、所蔵品データベースを研究・鑑賞のためにぜひご活用ください。データベースの閲覧は当館ホームページの「所蔵品検索」からアクセスが可能です。



ギャラリーフロール 入り口

わが館ひと自慢

当ギャラリーの運営には多くの在学生が学生スタッフとして関わっています。企画展や申請展開催中は会場の受付や監視業務を行い、また所蔵品の管理業務では担当職員の指導の下、作品調査や台帳の作成、データベースへの登録などの業務を行っています。これらの仕事は学生にとって、専門的かつ実体験型の社会学習として、貴重な経験となり、将来の活動に役立つことと期待しています。

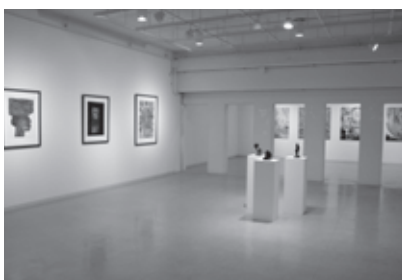


受付業務にあたる学生スタッフ

わが館もの自慢

12,000点におよぶ所蔵資料が当ギャラリーの核となる存在です。内容は美術作品、工芸作品、工芸資料、民俗資料など多岐に渡ります。美術系学部を持つ大学ギャラリーの特徴として歴代の教員のまとまった作品群や、寄贈により一括収集した工芸資料（例えば6,000点の染の型紙）など他に例を見ない資料を多く含み、これらは所蔵品の中で「～コレクション」として、区分して管理しています。また、現代の社会を反映する現代美術のコレクションにも力を注いでいます。

ここで紹介する『白い目の人形』は現代彫刻作家、岡崎和郎の近年の代表作です。彼は物の欠落した部分を補おうとする「補遺」の概念を作品のテーマに掲げています。作品は表側と裏側（表面と本質）の関係性を問いかけることで、物の本質を示すこととなります。一見ただのキューピー人形に見えるこの作品も、実は人形のビニールの内側に石膏を流して形作られています。つまり私たちが見るこの人形は実は人形の内側（空洞の部分）の姿を見ていることになるわけで、ここにも作家の物の本質を捉えようとする姿があらわれています。



展示室



岡崎和郎作『白い目の人形』2005年作、石膏・ガラス H. 35.0 cm

●所在地

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 京都精華大学内

●TEL (075)702-5291

●交通 叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」駅下車すぐ、地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車後に3番出口からスクールバス

●開館時間 10:30~18:30

●開館日 展覧会開催期間（日曜日休館）
 夏期、冬期の授業休止中および入学試験時等は休館します。
 詳しくは当館ホームページでご確認ください。

●入場料 無料

●ホームページ

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur/index.php>

きょう さし もの しりょう かん
京指物資料館

館長 宮崎 紀子

わが館を紹介



京指物資料館 外観

京指物資料館は御所の南、家具の街夷川に位置します。釘などの接合金具を使わずに、組手等の指物の伝統技法を用いて、漆、螺鈿、蒔絵で仕上げた、京都らしく雅やかな家具の展示をしております。松や欅など木目の強さを活かした江戸指物とは対照的に、桐など柔らかい木で繊細な面をとった京指物の特色をご覧ください。

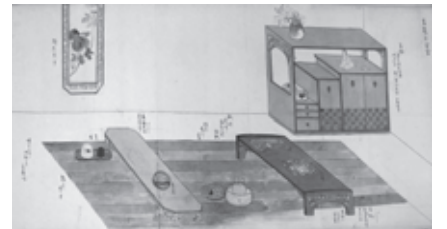
また明治末から大正、昭和初期にかけて京都画壇で活躍した竹内栖鳳や上村松園などの図案を展示しています。なかでも日本の近代デザイナーの草分けである神坂雪佳の貴重な家具図案集もご覧いただけます。それらの図案に基づいた製作

作品も写真展示してありますのであわせてご覧ください。

細かい点まで丁寧に仕上げられた作品、それらを作るために職人自ら作った非常に細やかな道具の数々もご覧頂けます。



平日地ハツ橋蒔絵 飾棚



神坂雪佳 図案

わが館もの自慢

漆や螺鈿で仕上げられた家具とともに桐タンスも京指物だといえます。京指物資料館では、

桐タンスとその特性について展示をしております。

桐は日本産の木材の中では比重が最も小さく、水にも火にも強い特性を持っています。桐タンスは桐の持つそれら特性に高い技術が融合することにより、気密性が高く、調湿性をもった四季のある日本の風土にあった高級家具として確立しています。

火事や洪水に見舞われた桐タンスに収められていた着物が無事であったという例の写真も展示しております。

また、写真にありますように古く黒くなった桐タンスも洗いをかけ、仕上げ直せば、新品のように甦ります。古くなったお祖母様のタンスも、孫子の代まで引き継ぐことができます。また、館内より実際の桐タンスの仕上げ作業をご覧になることもできます。

そのほか、樹齢400年に及ぶ吉野杉の切り株を展示しております。その大きさや様々な歴史が木が見てきたことを体感して頂くことができます。



更生筆筒

わが館ひと自慢

先日の夷川商店街のワークショップでは、子どもたちを中心として指物の材料である木を実際に手にとってお勉強をしました。一口に木と言っても比重が異なり、桐は水に浮き、黒檀は沈むこと、世界中から産出される木の種類の多さや、それぞれの名前、特徴、木の使われ方、成長のしかたなどをクイズ形式にして、より木のことを身近に知ってもらいました。



ワークショップ風景

●所在地

〒604-0804 京都市中京区夷川通堺町西入 絹屋町129番地

●TEL (075) 222-8221

●交通 地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車徒歩約5分

●開館時間 10:00~17:00

(月~金曜日はインターホンで声かけ)

●休館日 夏期、年末年始

●料金 無料

●ホームページ

<http://www.kyoto-t-f-museum.jp>



オリッサ州シンハナータ寺撮影譚

—インドにおける文化財調査の一事例—

京都市立芸術大学

芸術資料館長 定金 計次 (京博連幹事)

ここ数年、毎年九月に美術調査のためインドに出掛けている。調査対象の多くは、インド中央政府の考古局が管理している。研究者が正規の手続きをすれば、写真撮影を中心とした調査許可は比較的得易い。十数年前までは、ニューデリーの本局でインド全体の許可が得られたが、今は地方の支局に委ねられ、広域にまたがる調査では、複数の支局に申請書を提出する必要がある。無論強力な伝手があった方が、手続きが早く進む。それでも、良く言えばおおらかな国であるから、早く申請しても調査までに許可書が入手出来るとは限らない。調査開始当日に支局に乗り込んで、何とか許可書を獲得した冷や汗ものの経験も少なくない。

昨年のオリッサ州における調査の際も、日本に許可書が届かず、ニューデリーに到着してから伝手を頼ったものの解決せず、同州都のブナネーシュワルに到着して直ぐ、役所一般が閉まっている土曜の午後であったが、現地の支局に押し掛けてみた。行ってみると、係員が既に許可書を作成し、私が来るのを待っていたという状況で、いささか拍子抜けであった。調査であろうが観光であろうが、インドでは「押しの一歩」が鉄則であることを改めて認識した。

オリッサ州の調査は、ヒンドゥー教と仏教の寺院遺跡が中心で、まだ行ったことがない幾つかのヒンドゥー教寺院の撮影許可を得た。中でも同州を南北に分ける大河たるマハーナディー河の島にあるシンハナータ寺の調査が、特に意義深かった。雇った若い運転手は全く場所を知らず、途中の道が良さそうな北岸から渡ることに決め、地図を見ながら数時間西に車を走らせ、何度か尋ねつつ、渡し場があるバランバという村に到着した。ところが、近隣の信仰が



バランバ村はずれの船着き場から眺めた島



東南東より見たシンハナータ寺

厚い割りに、島に渡る手段は極めて原始的で、栈橋がある訳でなく、裾をまくり裸足で、岸から少し離れた木造の小舟に乗り、更に島手前の中州で一回り大きな舟に乗り換え、やっと到着という有様であった。

考古局職員である寺の番人が帰宅するのと中州で出会い、私が三脚を持っていることが問題視され、撮影許可書を呈示して納得して貰った。島に着いてみると、砂地を二百メートル余り歩いた先に寺はあり、あまり紹介されることがないものの、強い河風に曝され風化が目立つとは言え、外壁に施された浮彫も含めて八世紀頃の特徴が顕著な非常に立派な寺院であった。日本人で行った人は、殆どいないと思われる。来た甲斐が充分あったと感激しつつ、撮影に取り掛かろうとすると、現地にいる番人の下請けみたいな青年が絶対撮影禁止とわめき出す始末で、これも過去に何度か経験したトラブルの一つである。この時は、同じ舟で来て番人との遣り取りを目撃した数人のインド人が、口々に反論してくれて、無事撮影を始められた。

撮影は昼食抜きで数時間に互^{わた}り、体力勝負であった。ほぼ終わり掛けた頃、雨期の終盤という時節柄、厚い雨雲が近付き、運転手が丁度帰りの舟が出ると言うので、急いで残りの撮影を終え、舟底から浸水して来るのを気にしながらバランバに戻り車で帰途に着いた途端、雨が降り出した。色々あったが、昨年の調査では最も充実した一日であった。

発行 平成24年1月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局 (京都市教育委員会 生涯学習部内)

所在地 〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下 元生祥小学校内 TEL : (075)251-0420 FAX : (075)213-4650

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_13.html